

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 需要対応型ぎふ米産地ブランド確立支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内2863)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,710 千円 (前年度予算額：3,710 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,710	1,330	0	0	0	0	0	0	2,380
要求額	2,710	330	0	0	0	0	0	0	2,380
決定額	2,710	330	0	0	0	0	0	0	2,380

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

生産性と持続可能性を両立した米生産体制づくりを強化するため、人口減少や食生活の変化により主食用米の需要が減少している中、米卸業者等の実需との結びつきの強化に向けて、利用者（食品産業等）のニーズに合わせたオーダーメイド型の産地づくりを推進する必要がある。

また、米生産者の所得向上に向けては、多収性品種の生産拡大や省力・低コスト栽培技術の普及、良食味栽培技術の確立が必要である。

(2) 事業内容

- ア オーダーメイド型米づくりによる産地創出
 - ・産地と実需が連携した県育成系統「岐系207号」の生産体制と技術確立
 - ・県育成系統「こなゆきひめ」を活用した米粉用米の産地創出
 - ・「岐系207号」、「こなゆきひめ」の種子生産体制の構築
- イ 多収性のある県奨励品種「ほしじるし」、「あきさかり」の生産振興
 - ・省力、低コスト等栽培技術の導入や生産拡大
- ウ 良食味高品質米生産に向けた取組み
 - ・食味向上に資する栽培管理体系の確立
 - ・「ひだほまれ」栽培研究会の立ち上げと高品質施肥体系の確立

(3) 県負担・補助率の考え方

主食用米の需要が減少する中、実需と結びついた生産・販売や需要に応じた米生産を推進することは、ぎふ米の安定供給につながることから、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	50	講師謝金
旅費	421	業務旅費、依頼旅費
需用費	330	実証消耗品費(207)、調査燃料費等(123)
役務費	728	郵便料、電話料、データ利用料
委託料	1,115	味度計検定、実証業務、分析
使用料	66	会議室使用料、高速道路使用料など
合計	2,710	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

(2) 安心で身近な「ぎふの食」づくり

③ 水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

(2) 国・他県の状況

・「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月31日閣議決定)

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

・農林水産省策定の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」が位置づけ。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

米の消費量が減少傾向にある中で、需要に基づく新たな米の産地づくり、農業者の所得向上に繋がる米づくりを推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H26)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
米の食味ランキング (ハツシモ)	A	A'	特A	特A	特A	33%
米の食味ランキング (美濃コヒカリ)	設定なし	A	特A	特A	特A	67%
米の食味ランキング (飛騨コヒカリ)	特A	特A	特A	特A	特A	100%

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	(1) 良食味米の栽培方法の確立 施肥・管理等、良食味栽培実証ほの設置（4カ所） (2) 食味評価者育成研修会の開催 食味向上研修会：令和3年3月4日、49名参加 (3) 衛星画像を活用した米のタンパク含量等の推計分析 調査地区：下呂市、白川村
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	米の消費量が減少傾向にあるなか、需要が伸びている米生産の拡大、県主食用品種の良食味栽培技術の確立普及が必要である。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	米の需要減少が進むなか、食と農の繋がりへの深化、農業所得の増大に資する取組であることから、本事業の有効性は高い。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 需要に基づく米産地づくりの加速化、「特A」評価維持のための各種技術を活用した食味向上技術の強化が必要である。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ 実需者等との結びつきの強化による米の販路拡大と安定供給の推進。 ・ 食味、品質や生産性の向上を図る栽培技術の確立普及。
--